

(様式1)

令和4年度 学校評価結果報告書(特別支援学校用)

(1) 学校教育目標	生徒がそれぞれのニーズに応じて自立し、主体的に社会参加することができるよう、必要な知識、技能等を培うとともに、豊かな心と健やかな体をはぐくむ。	学校整理番号	特9
(2) 現状と課題	肢体不自由、重度重複障害、知的障害のある生徒が在籍しており、それぞれに対応する教育部を設けて指導している。障害の重度・重複化や生徒の教育的ニーズ及び進路希望等が多様化している中、卒業後、生徒が地域社会で活動できる力を身に付けるようにすることが課題となっている。	学校名	青森県立青森第一高等養護学校
(3) 重点目標	1 授業の充実 2 家庭、地域との連携(地域の社会資源の活用) 3 働き方改革 4	対象障害種別	視覚・聴覚・知的・肢体・病弱
(4) 結果の公表	学校評価結果を保護者に配布するとともに、学校ホームページに掲載する。	自己評価実施日	令和 5年 1月19日(木)
		学校関係者評価実施日	令和 5年 2月 1日(水)
		(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成	学校運営協議会委員(校長を除く8名) 地域住民・地域公共施設館長 4名 障害者支援機関 1名 障害者就労支援機関関係者 1名 教育関係者(元職員) 1名 保護者(P.T.A会長) 1名

自 己 評 価				学校関係者評価		(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	授業の充実	・主体性を引き出すため、ねらいを明確にした授業の推進 ・ICTの効果的な活用に向けた校内体制の構築	・関係機関と連携した研修を行い、「なぜ、何のため」かを生徒に伝えるようにして教育活動を展開した。 ・校内研究と連動し、障害の状況に合わせたICTを活用した授業づくりを実施した。	B	・積極的に地域で発表する場をつくることで主体性が育まれると思う。 ・ICTの活用は、専門家等外部の人材を活用してはどうか。	・生徒の意見を取り入れた行事運営や教材購入をすることで、生徒主体の授業づくりを推進する。 ・GIGAスクール対応の端末を活用した授業づくりを推進する。
2	家庭、地域との連携(地域の社会資源の活用)	・学校運営協議会を生かし、地域資源やテイネイブランドを活用した教育活動の展開 ・連携による安心・安全な環境づくり	・学校運営協議会の意見や協力を得ながら、全国産業教育フェアへの参加、市内でのテイネイブランド製品の展示を実施した。 ・感染症対応やハザードマップ改訂に伴う検討など校医や地域と連携した取組を行った。	A	・全国産業教育フェアや市内での製品展示は評価できる。今後、地域での展示や展示に関する周知をしてほしい。 ・避難に関し、校内整備や地域連携が進められていることが理解できた。	・テイネイブランド製品等の展示を継続するとともに、教育活動について家庭や地域に丁寧に伝えていく。 ・改訂されたハザードマップに対応した避難訓練を実施していく。
3	働き方改革	・教職員がやりがいをもてる職場づくり ・会議の効率化や労働時間の把握による意識改革	・感染症対策をしながらできる限りの教育活動を展開し、やりがいをもって勤務できるようにした。 ・勤務状況や仕事量を把握し、過度な勤務状況にならないよう配慮した。	A	・県外への修学旅行やめいせい祭など行事が実施できて大変ながらもやりがいをもつことができています。 ・環境整備が安全で働きやすい職場づくりになる。	・会議日を集約して効率化を図った好事例を参考に、更なる業務の効率化を進める。生徒、教職員ともに満足できる教育活動を構築していく。
4						

(11) 総括	・アンケート結果では、自己評価は4点満点で平均が3.6と概ね良好である。「地域資源の活用」は社会情勢の変化に伴い改善されてきている。「働き方改革」については改善されてきているが、「やや不十分」と捉えている割合が依然高い。保護者アンケートでは、「医療や福祉等との連携」で「あてはまらない」「わからない」の意見が見られ、連携していることを丁寧に伝えていく必要がある。 ・「授業の充実」「家庭、地域との連携」については次年度の課題として、教育活動の改善と円滑な学校運営に努めていきたい。
---------	---